

ひめまつ

28



宇都宮短期大学附属高等学校生徒会

武幸

ひめまつ 第二十八号 目次

表紙……島田 武幸 題字……石川 木魚 扉……栖原 賢樹 写真……伊東 礼一

〔巻頭言〕 雪解けの音をききつつ…… 学校長 須賀友正…… 1

他校に負けない生徒会活動を（新生徒会長としての抱負）…… 小野 進…… 2

価値あるもの、それは「経験からの体得」（二年の活動をかえりみて）…… 信瀬ひとみ…… 3

校内読書感想文コンクール入賞作品集

二十歳の原点

恍惚の人

伊豆の踊り子

沈黙

清兵衛とひょうたん

をりをりの歌（短歌）

東川幸江・植木容子・沼尾英子・忍田洋子・佐藤加代子・手塚景子・青柳紀枝・池田啓子

藤本美代子・大島里子・沼尾時子・小貫悦代・磯 光子・斎藤利治・伊藤 武・坂本晃一

倉井昌子・関佐智子・伊沢久子・あらかわまさゆき・須藤淳子・大沢友子・小林弘美

保田宗子・小田垣啓子・若林順子・長野昌子

愛と死

生まれ出づる悩み

ベイトウエンの生涯

高瀬舟

橋のない川

室井 光子

安西 千恵子

滝田 しげみ

安田 玲子

石川 浩子

寺内 恒夫

16

詩

特集・学園ニュース・トピック

長決る・生徒会総会・体操部の成果・定期演奏会・バントワラーズ・初の校内からた大会・PT

A研修会・詩集「月夜の傘」出版・三年生の教養講座・珠算検定の合格者・師弟愛の発露・予餞会

▽各地域学友会の活動

奉仕に慰問に鹿沼支部・慰問を終えて（松島陽子）・阿字が浦へ（石橋支部）・芳賀支部の活躍・宇都

宮第一・第四支部が清掃奉仕・普恵園（上河内地区）・とちの木荘を慰問、その感想（長岡喜世子）

学園俳句

42

学園短歌

88

クラブ活動この一年

◇幻想 Ⅱある夏の後の思いⅡ

高橋 和子

64

特別

寄稿

圧巻はイタリアとパリ（ヨーロッパとび歩きの二十四日間） 斎藤多嘉男

65

Ⅱ弁論大会入賞者の論旨集Ⅱ

素直さこそ交流のきずな

薄井 キクエ

真 心

磯 洋子

ひとりの老婆より

大塚 美智子

健康と人権

商道の高揚を訴える

伊沢 久子

医療福祉の充実を

金田 京子

77

旺文社全国学芸コンクール佳作「城の崎にて」

一年 上野 博子

80

特別寄稿

学園紹介のコンセプトフィルムを見て

倉井 良照

82

職員 寄席

緑を大切に

須賀 淳

英語をやつてきてよかった

浦壁 美智子

明治の青春

斎藤 順二

83

森と湖と山と（裏磐梯キャンプにて） 橋本美恵子・鈴木久子・高橋由枝・長岡喜世子…… 90

修学旅行（関西・小豆島・四国） 根本ユキ子・山田洋子・大橋克枝・中田智子・福田多美子…… 94

海は青年に似ていた（二年生の阿字が浦遠足） 小林祐子・高田恵子・野口洋子…… 98

▽私たちの発言△ 伊沢久子・浅見祐子・江連喜美子・磯 光子…… 100

小島直子・松沢澄子・河原京子・出井恵美子・大足純夫・伊藤 武・大塚美智子…… 111

家政科技術検定について 検定合格一覧 昭和四十八年度生徒会役員一覧…… 115

昭和四十八年度就職決定状況 生徒会・生徒評議会・クラブ部長…… 117

職員住所録 編集後記 奥付△…… 117



議事さばきも鮮かに……48年度生徒会総会

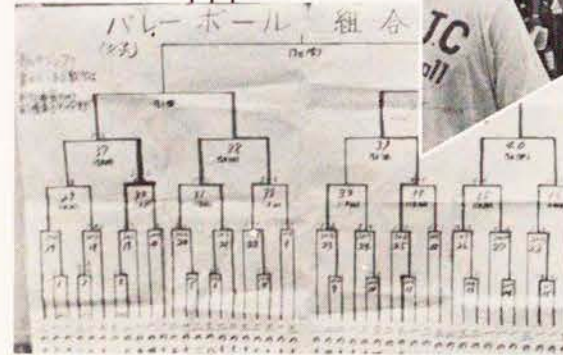


新生徒会役員紹介……あいさつする小野会長



校内球技大会より

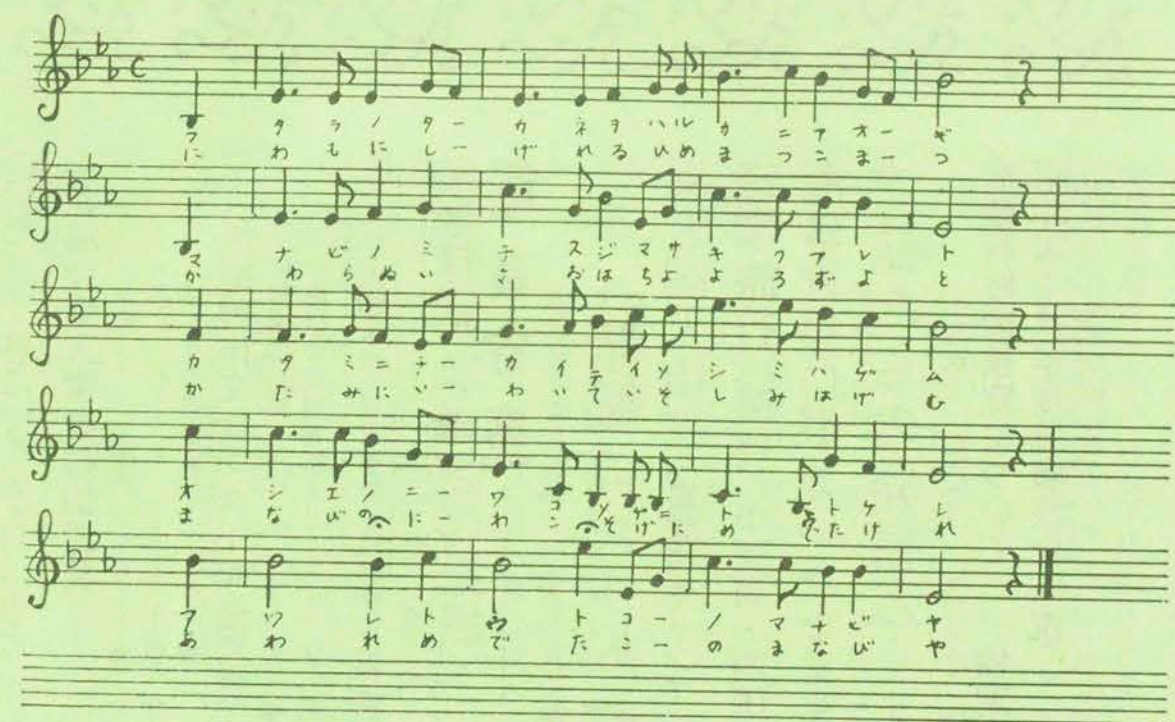
熱戦続くバレーボール……



どさんと賞品を！受ける太田先生

組合わせです！運不運は？
こちら側には真剣な選手の眼が！

校 歌



二 荒の高嶺を 遥かに仰ぎ
学 びの道筋 まさきくあれど
か たみに誓いて いそしみ励む
教 えの庭こそ げに尊けれ
あ われ尊 この学びや

二
庭 面に茂れる 姫松小松
変 らぬ操は 千代万代と
か たみに祝いて いそしみ励む
学 びの庭こそ げに芽出度けれ
あ われ芽出度 この学びや

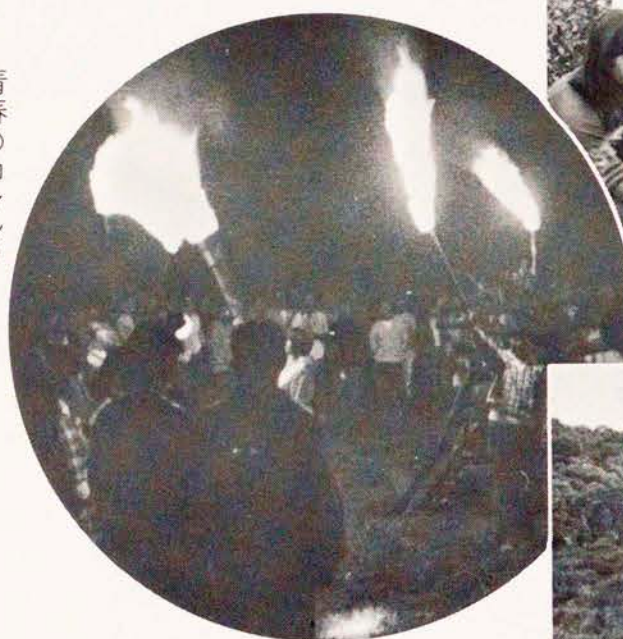
宇都宮短期大学附属高等学校校歌



本県名物のひとつと
たわれる定期音楽会…
栃木会館大ホールで

磐梯キャンプアルバム

青春のロマン！
生涯の思い出、
キャンプファイヤー！



まず炊飯！指導もキメ細かに



磐梯よ！さようなら。下山はのんびりと。



文化祭開幕！入らっしゃいませ
押すな、押すなの盛況でした。



バトンガールのお出迎え……
アトラクションは館内でどうぞ

創立73周年記念文化祭

お正月を楽しく！全クラス代表
者が出場して………賞品もどっ
さり………家庭科特別教室で



夢見る瞳……洋裁部の作品です。



雪解けの音をききつつ

学校長 須賀友正

たれた雪の訪れであつたらうか。

まさに百万ドルの大雪。そして入試の当日は難かしい雪晴れの好天。雨樋を流れ落ちる雪解け水の音を、こんなになつかしい思いをこめて聞いたのも久しいことのように思えてならない。

しかも本校一本を屈指して、大雪の朝を物ともせず、一人の落伍者もなく、全受験者が出席し、その数も九百におよぼうという最高の数字に達したのだから全く言うことはない。

多くの後輩を迎える喜びを、私は先輩である皆さんとともに心から喜びたい。

このことは、世間一般の本校における教育内容に対する認識が深められたことに基づくものであるが、在校生ならびに卒業生の皆さんが身をもって示している日常善段の行ないが立派であり、それに対して世間の評価が高まってきたということも見逃せない一事であると思う。また進路指導に当たられる諸先生方のご理解、ご協力の賜とただ感謝の思いでいっぱいである。

これらの期待にこたえる道はただ一つ。われわれ職員、在校生、ご父兄の皆さんともども三者が一丸となって、教育の実績、成果をおさめることに全力を傾注することである。「一人は一校を代表する」との名生活目標に向かって、まっしぐらに前進あるのみである。

教科に実技にクラブに、学友会、生徒会活動に、協力一致、団結の力でぶつかっていくことである。

そして本校生徒のもつ三つの至宝、素直さ、誠実さ、優しさをいよいよ発揮して、あらゆる場面に対処していくならば、必ずや、関係各位のご期待に添い得ることができると確信する。

皆さん、「道は近きに在り。」です。一步、二歩着実に大地をふみしめ、一日一日を大切に、今年もしつかりと歩んでいきましょう。



一緒に歌いましょう……
ミュージカル・アカデミー
の皆さんと……
卒業生を送る会…体育館で



ミュージカル・アカデミー
のスタッフの熱演！
楽しいひとときでした。



待ちきれない人々！
四十九年度入試合格者の発表

特集

学園ニューストピック

電話や手紙などでぞくぞくと感謝のことがばが寄せられた。以下はその一つ。

受贈者からの礼状

呼び戻された生きる喜び

和と団結と！

楽しかった

校内球技大会

第十回校内球技大会は、天候にも恵まれ、七月九日から十二日の予選、十三日の決勝と五日間にわたり行なわれました。

今年も前年度と同じく男女別に勝敗を競い合い、全校生徒が運動に親しむと共にクラブの和・団結を目的に、前年度よりも活気にあふれた楽しい球技大会になりました。

結果は次の通りです。

○女子の部

種目	1位	2位	3位
ソフト	3の7	1の15	3の15
バレー	1の2	3の7	3の11

バスケット 2の15 1の14 2の4 1の5

○男子の部

種目	1位	2位	3位
ソフト	1の9	3の10	3の9
バレー	音全男	1の10	2の10
バスケット	3の9	1の10	2の9

『敬老の日』に記念

品を贈呈

あたたかい生徒会の催し

十月十五日敬老の日にあたって、本校生徒会が中心になり、全生徒から恒例の募金を行ない、七十才以上の長命者の方々八三〇名（いずれも在校生の家族）に対し、美しい湯呑み茶碗を贈ったところ、お年寄の皆さんから、

拝啓 生徒会の皆様、敬老の日の御祝い嬉しく頂戴致しました。

最近では若い人達と吾々老人はひどく縁遠いもののように感じさせられることが度々で淋しく思っています。御校の皆様方は老人を見捨てるところか、このように温情を結構な陶器に託されてお届け下さったことにより、無気力な私も生きる喜びを呼び戻して頂きました。

嬉しさでいっぱいです。この喜びをうまく表現できませんが厚く御礼申し上げます。

末筆ながら御校生徒会の限りない御発展をお祈り申し上げ御礼の言葉と致します。

九月十五日

楠 本 信 夫

宇短大附高生徒会の皆様

必修クラブの増設など

生徒会総会終る

昭和四十八年度生徒会総会は、六月二十一日（木曜日）、一時五十分より開会の言葉で始められ、学校長挨拶、生徒会長挨拶、新本部役員紹介、専門委員長紹介と行なわれ、続いて昭和四十七年度および本年度の行事報告、昭和四十七年度決算報告、昭和四十八年度予算案と各種報告もスムーズに行なわれ討議にうつりました。

今年、必修クラブとして二十五のクラブが増設され、体育部十六、文化部二十八となり、各部の予算も請求額通り分配することができず、各部長による予算審議会において今まで百円だった生徒会費を五十円値上げすると各部とも請求額通り分配できるということで賛成し、さらに評議会を通して承認していただき、次いで全生徒の三分の二以上の承認を必要とするので「生徒会費五十円値上げ」についての討議が今年の生徒総会の一番のポイントでした。その結果、満場一致で可決

され、生徒総会会則第十一（第二〇条）に基づき改正されました。

続いて議題に移り

（一）自主的な文化祭にするため企画委員会を設置することについて。結果は企画委員を選出して委員会を設置し、文化祭の開催・運営に関する一切の問題をこの委員が行なうことになった。なお細目については評議委員会検討することに決まった。

（二）会釈・挨拶の励行について

（三）自然に気軽な挨拶をかわそう

（四）朝夕校門で一礼することについて

会長に「小野 進」決まる

自主性を尊重した生徒会役員改選

十一月十二日水曜日、昭和四十九年度生徒会役員改選が行なわれた。今年ほどのようにしたら来年度進歩のみられる生徒会が作られるか、生徒会役員の選挙の仕方、方法や、任命後の役員の活動状況を考え、再検討した結果、これまでの一クラス一人の立候補でなく

結果として、各人が確実に心掛けるようにしようというので「会釈・挨拶を励行しよう」と生徒会小目標としても掲げられ、討議を終りました。

全体の反省としては、入場が遅く、なかなか開会できる雰囲気になれなかった。

（一）入場が遅く、なかなか開会できる雰囲気になれなかった。

（二）「生徒会費の値上げ」という討議により時間が左右されてしまい、自主的に活発な意見発表がなできわめて低調に終わった。

以上が生徒会総会の模様であり、一応無事終了することができました。（信瀬ひとみ）

なぜ、今年これらのことを重視したかという、現在高校生は四無主義といわれています。その波は、決して我々におし寄せてこないとは言いきれないと思います。そこで私が一番恐れていることは、その波の影響で、生徒が生徒会に対して無関心と非協力的態度を取るということです。

生徒会とは、全校生の属する自分達の会です。単なる行事遂行機関ではありません。そこには当然二千四百余名の「心」が集結されるべきものではないでしょうか。

このような皆で大切にしなければならぬ生徒会に、「まごころ」を持ち、自覚ある、何事にも積極的に意欲を持った生徒のリーダーとなつて、生徒のための生徒会を作りあげていっていただきたいからです。

今年は副会長候補九名、会長候補九名が立候補し、各クラスから選ばれた応援弁士がそれぞれ推薦の趣旨を述べ、約二時間にわたり、各自生徒会会長ならびに副会長立候補に当たつての意見、抱負を述べた。

投票は一人ずつ行なわれた。開票は、生徒会顧問の先生、選挙管理委員の手で厳正に行なわれた。

今年度の立候補者は次の通りである。

○副会長候補

クラス	氏名	得票数
1の1	舟川清美	九二
3	大貫秀子	二六六
4	河野明子	八六三
6	沼尾きみ代	六三
9	松田和也	三二〇
10	川島玲子	一七一
13	荒井三枝子	一〇〇
14	薄井キク江	六七
15	能田恵子	一〇三

○会長候補

クラス	氏名	得票数
2の1	長岡喜世子	六八
2	鈴木康子	八二
7	芳賀美地子	八八
8	長南千恵子	四〇二
9	小野進	六八八
10	斎藤穂	二〇四
11	佐藤則子	一一一
12	大野好子	二五七
14	巻島文子	一九七

以上の通りですが、尚生徒会会則第三章第八条により、会長には本校開校以来はじめての男子小野進が、副会長には長南千恵子、河

野明子が決まりました。(信瀬ひとみ記)

「佳作」に入賞

旺文社の読書感想文コンクール

昭和四十八年度旺文社全国学芸コンクールに応募した本校生徒中、上野博子さんが読書感想文の部で、佳作に入選、同社から記念品をおくられた。

「城の崎にて」(志賀直哉作)を読んで

一年十一組 上野博子

さらに磨かれた歌声

校内合唱コンクール本選

第十回校内合唱コンクール本選が、十一月九日体育館にて行なわれた。昨年は、体育館増築のため体育館使用が、不可能だったので、不自由したが、今年は全生徒が体育館に集まって、本選を行なうことができた。

本選に残ったクラス全部が、この日のため

にたくさんの練習を積んで来たことだろう。各クラスとも、すばらしい歌を聞くことができた。

今年の課題曲は、近藤朝風作詩・ペイリ作曲「久しき昔」。第一位・三年十一組、第二位・三年十五組、第三位・二年十一組という結果が出た。今回の合唱コンクールでの審査員の先生方からの講評は、やはりおほめのことが多かったようである。以上のような結果を得て、第十回校内合唱コンクールを閉会した。尚、賛助出演として最後に、音楽科コーラス部の歌、合唱が行なわれ一段と光彩を添えた。

音楽科合唱団

「モルダウ」
「花 季」
「久しき昔」

コーラス部

「ドナ・ドナ」
「小さい花」
(白石恵美子記)

力作が続々

校内読書感想文

受賞者決る

昭和四十八年度校内読書感想文コンクールの受賞者は、二千四百余名の参加者の中から慎重な審査の結果、つぎのとおり決定した。こ

としも夏休前に「年間読書のすすめ」を配布し、一人最低三冊を読み、各自必ず一編の感想文を提出することとし、審査は各学年別に

行ない、各学年毎に上位三位までを入賞とし、賞状ならびに賞品をおくり表彰することにし

た。各学年別の入賞者はつぎのとおり。

▽一年

一位 「生まれ出づる悩み」 12組 安西千恵子
二位 「ベートーヴェンの生涯」 11組 滝田しげ子
三位 「橋のない川」 16組 石川 浩子

▽二年

一位 「沈黙」 15組 阿部 隆子
二位 「清兵衛とひょうたん」 4組 田代 勝江
三位 「愛と死」 6組 室井 光子

▽三年

一位 「二十歳の原点」 11組 大内文子
二位 「恍惚の人」 7組 吉羽昭子
三位 「伊豆の踊り子」 12組 山田洋子
なお、各学年の佳作入賞者は次のとおり。

「一年」 静かなドン・湯本敏子。路傍の石生沢洋子。走れメロス・手塚博子。伊豆の踊り子・増山純子。車輪の下・手塚晴美。にんじん・松田和也。鼻・古山公子。愛ある時・永島成美。こころ・大森春枝。草枕・高橋則子。旅の重さ・竹沢栄久子。

「二年」 インドで考えたこと・伊沢久子。地獄変・阿久津敬子。二人の友・星野和代。悲しみよこんには・福島光枝。遠野物語・川田悦子。狭き門・関谷恵美子。一房の葡萄橋のない川・小林孝子。罪と罰・松沢澄子。人間失格・五月女啓子。走れメロス・小山久美子。愛と認識との出発・田村知子。アンネの日記・秋山恵美子。二十四の瞳・鈴木八重子。ビルマの竊琴・大岩倫子。こころ・吉沢淳子。遙かな国遠い国・福田純子。

「三年」 破戒・小林章子。人間失格・笹沼英子。若きウェルテルの悩み・白石恵美子。浮城記・館野智子。青春論・高木美恵子。馬鹿一・落合妙子。いつも心に太陽を・磯谷とみ子。日本沈没・小野沢よし子。英霊の絶叫・小倉京子。父帰る・戸田智子。思慕の彼方に・大塚美智子。花埋み・鳥水恵子。出世・長浜登美子。悔いなき命・松本文子。悲しみよこんには・瀧岡真佐子。斜陽・大沢友子。

などに利用された外十一月二十日から二十七日まで東武百貨店ギャラリーで一般公開された。

高校の部 一位、一年大島待子。二位、一年倉井博子。三位、二年伊沢美千代。

初の校内かるた大会

入賞者には『小倉百人一首』を

第一回校内新年かるた大会は国語科主催、生徒会後援のもとに一月十二日(土)放課後一時三十分から家庭科教室にて開催。対象は三年全クラスとし、各クラス五名宛計七十五名の選手を推し、予選全員、本選三十名、決勝戦には十一名の選手が出場、お正月らしい楽しいムードの中に、左の入賞者が決まった。

一位 小倉京子11組 二位 堀 弘子10組
三位 山田洋子12組 四位 高木 修9組
五位 伊藤厚子4組 五位 狐塚典子11組
なお入賞者全員に賞品として『小倉百人一首』一箱ずつを授与した。また本大会は恒例行事として毎年新年早々行なう予定なので、各自練習に励んでもらいたいと同科では望んでいる。

惠次、羽島裕之、木村新一、石川浩三、関口一夫、大島文男、鈴木広吉、大塚栄、赤石沢澄江、江連重男の皆さん。(以上父兄側)

学校側 副校長、太田茂雄、三矢静江、築島章、手塚武の各教諭。

詩集「月夜の傘(弱)」を出版

―手塚武先生十年の集積から―

本校教諭手塚武先生が、第二詩集「月夜の傘」を下野新聞社から出版した。先生は現代国語の担当。下野新聞文芸選者(詩欄)としても知られている。自然を愛し、人間をいっくしみ、蝶やたんぽぽに至るまで愛情を注いでやまない先生のお人柄がよく表われている。

なお二月十七日(日)宇都宮市「中村」で百余名の人達による、同詩集の出版記念会が盛大に行なわれ楊枝郎先生作曲に成る「八月のうた」「雲について」「花の中で」等同詩集の中からの作品が名倉佳子先生の独唱で、また名倉省二・川名悟・森山純子・青木雅美さんなど宇都宮の音楽トリオによる演奏が行なわれた。

秘境湯西川で研修会

四十数名が参加、第四回の勉強会

第四回PTA研修会は去る九月二十九、三十日両日にわたり、奥鬼怒の秘境湯西川温泉にて行なわれた。

季節はよし、好天候にも恵まれ、バスの中の研修も一段とはずむ。紅葉にはまだ間があるが、五十里ダムを過ぎるとナナカマドやヌルデなど、早くもほのかな紅をちらつかせ、湯西川の清流とともに、紅葉時の華やかな風景をしのばせる。

午後四時過ぎ、予定どおりホテル亀屋に着。直ちにプログラムに従って研修会に入る。第一の議題は、夏期休暇中に行なわれた各支部総会についての反省と希望。ことしは主なる支部の代表者多数が出席していたので、活発な意見が繰出。来年度総会の望ましい運営について大いに得るところがあった。

次いで学校側が準備した①生徒指導、これ

だけは必要な十ヶ条②生徒から見た先生像―好かれる先生、嫌われる先生③こうして好い子に(親御さんの心得十ヶ条)をテキストに熱心な話し合いがつづき、時間いっぱいまでがんばりようやく一風呂浴びたころは早や七時をまわろうとする時刻。

翌朝は平家塚その他を思い思いに見学して多大の成果をおさめ予定どおり日塩道路をまわり、お土産には高原大根を下サンと買い込み無事帰校した。当日の出席者は次の通り。

▽高山源吉、斎藤文夫、瀧岡真文、藤野新吉、篠崎キミエ、古山康夫、斎藤良、六川彦次、植野由一、石倉勇、長野甚作、岩下考宏和地大作、中島至一、竹沢栄、古川昭二、山沢国長、河原忠一、鶴見直四郎、福田忠一、亀山徳治、小川誠、竹口源一、佐々木央、石川栄、大貫弘司、渡辺務、荒川登志夫、篠原

卒業を控え心の充実を

―三年生の特別教養講座―

一月の声を聞くと、三年生は盛りだくさんの行事が企画、それを通して高校生活のしめくくりとすると共に、社会人としての心構えを養うことになる。その中でも恒例となつてゐる各種講話は、実社会へと直結する有意義なものであり、講師の先生を追う生徒のまなざしも真剣そのものであるといつてよい。

まずその皮助りとして、一月九日は山田保健所長の「精神衛生について」の話。調理科生徒にはおなじみの先生の話は、さすがに物慣れたものがある。心身共に健康な毎日を送るためには、何といつてもセルフ・コントロールが必要ということになろう。

続いて二十日には「新入社員への心構え」と題して、武田上野百貨店人事課長が、企業側からの新入社員への要望を、最近の経済状況とからみあわせて説かれた。今までは高校生だからということで、社会も是認してきたことがらは多いが、これからはそういった甘

えは通用しない。企業も万全の受け入れ態勢を整えつつあるのだから、それなりの自覚を持って、責任ある行動をとってほしい。それらの一言一言に聞き入る生徒の胸には、きっと社会人となる期待と不安が交錯したことであらう。

一月十四日は安養寺住職中臣洪範先生をお迎えしての修養講話。「仏陀のこころ」と題したその話の中には、日本人の心のよりどころとなる世界が、興味深いエピソードと共に展開された。その静かな語り口と共に、心のなごむ一時であった。

一月十六日は、県立図書館長鮎ヶ瀬次郎先生の「本とつきあう法」。青春時代の読書の意義については、現代国語の授業等でも繰り返しとりあげられたわけだが、先生の話を伺いながら、あらためて「一冊の本」を心に浮かべる生徒も多かったに違いない。

なおこれより先二学期にも栗原らく先生の教養講話「感謝の日々」や日本電信電話公社の高野三郎氏他による「電話教室」なども開かれていくことを付記しておく。

卒業を目前にして何かと気ぜわしい毎日、人生の先輩である諸先生の話を心の糧とすることは、一人一人の生徒に、計りしれない価

値あるものを結実していくことになろう。卒業生諸君の前途に幸多かれ。――(斎藤順二記)

珠算能力検定の合格者

昭和48年6月24日実施

2級 倉井昌子
3級 高浜昭子、仁平三佐子、橋本晴江、上野けい子、石川佐千代、小松良子
第79回珠算検定
合格者(10月28日実施)
3級 菅谷真知子
2級 木口郁子、神山米子、大柿久子、荒木美智代
3級 木曾綾子、飯竹美恵子、影山善子、大橋豊子、大八木幸子
第一回校内珠算検定
合格者(6月16日実施)
3級 神長妙子、白石はるみ、綾部康子、神山米子、木口郁子、山川順子、大柿久子、鳥居光子、仁平三佐子

三年 増淵陽子、松本文子
第二回校内珠算検定
合格者(10月20日実施)
2級 星野美佐子、広島ひとみ
3級 生沼明子(総満)、広田久美子、橋本佐知子
一年 生沼明子(総満)、広田久美子、橋本佐知子
2級 熊倉春美、大柿久子、石塚尚子、早乙女律子、小堀元江、高浜明子
三年 川田典子
第46回珠算実務検定
合格者(6月17日実施)
3級 武田光江、池田智子、松本文子、坂本由子、鈴木美智子、伊藤初枝

師弟愛の発露

卒業生川俣さんが善意の贈物

本校音楽科を卒業後国立音大ピアノ科へ進学、この春めでたく卒業した川俣啓子さんは父君の基次氏(小山市立桑中学校教諭)と

もに本校を訪れ、在学中お世話になった感謝のしるしにと金一封を校長の許に寄せられた。これは啓子さんが初月給の中から何かのお役に立ててほしいとおくれたもので、薄れ行く人情のひずみのなかに咲いた善意の花、師弟愛の発露として校内の明るい話題を賑わせた。

卒業生を送る会

「ミュージカル・アカデミー」を招待して

昭和四十八年度卒業生を送る会は、二月十六日(土)午前九時半から体育館で催うされた。ことはコーラス・グループ「ミュージカル・アカデミー」を招き、卒業生の皆さんにとつぷりと楽しんで貰おうという趣向。司会者の軽快な進行のもと、歌の世界旅行「みんなで歌いましょう」など盛りだくさんのプログラムに、全員が陶酔、時間の過ぎるのも知らずに交歓し合った。

なお、おしまいに、下級生から卒業生一人ひとりに、心あたたまるお祝いと励ましの手紙をおくり、感動のうちに閉会した。

優しい心づかいの運動

学生会が奉仕に慰問にノ

てんぷら作って老人ホームへ

奉仕に慰問に 鹿沼支部

一、国鉄鹿沼駅待合室 ホーム 駅前広場の清掃今年で七年目、先輩の業績を受けついでこの一年やってきました。毎週土曜日の午後三時、約、時間、一班八名、十名で班編成し実施しています。特に年末には例年大掃除をし今年、一、二、三年有志約四十名が参加し窓ふきに重点をおいて徹底した清掃ができ喜ばれ、またお客さんの中には、「えらいね。この寒い中で、どこの学校ですか、ぜひ新聞にのせましょう」といろいろ聞いてはメモして下さる方々がおりました。

を毎日放課後有志が集まり製作しました。老人に一本一本手わたしました。学校で終わらない所は夜おそくまで眠いのを堪え最後の仕上げをしたが、老人の方々のうれしそうな顔をみたら、そんな苦労はうそのようでした。

②九月十五日：敬老の日には慰問品(手拭タオル五〇本・石けん八〇個)その他学生会より寄贈していただいて、松島陽子他有志三〇名でエプロン持参で窓ふきや洗濯をしてあげ、また老人達の話し相手となり、一日奉仕活動ですごしました。涙を流して喜んでくれるおばあちゃん達ばかりでした。

③十二月二十八日：クリスマスプレゼントとして、てんぷらうどん、おにしめを私達の手で作りました。てんぷらは前の日に調理科の男子と共に農家の人にネギやにんじんをゆずってもらい五時間位かかっててんぷらをあげました。またその日は特に調理科・音楽科の男子の方々に手伝つてい

やがては私達も老人に

慰問活動は若い時に